

# プログラム 近況報告

2014  
年度

(2013年10月1日  
~2014年9月30日)

ベトナム社会主義共和国  
チャンエン地域開発プログラム (VNM-190848)

## チャイルド・ストーリー

「学校の先生になりたい」娘の夢を両親が後押しできるようになりました

チャンエン地域開発プログラム（以下、ADP）の支援地域がある、山奥の村で暮らすスイちゃんの両親は、狭い農地で懸命に働いていましたが収穫は少なく、収穫と収穫の間の数カ月間は毎日飢えに苦しんでいました。両親はよその畑の手伝いや山林の下草刈りなどの日雇いの仕事をしてしのいでいましたが、極貧の生活が続いていました。

しかし、6年前にこの地域でワールド・ビジョン（以下、WV）の支援が始まり、スイちゃんがチャイルドとして登録されてから状況が変わり始めました。両親は養鶏の研修とひな鳥の提供を受け、鶏を飼い始めました。産まれたひな鳥や卵を販売することで、今では年に約600万ドン（280米ドル）の収入を得ています。さらに、養鶏で得た収入を元に魚の養殖も始めました。養鶏や魚の養殖を始めたことで、スイちゃんの家族の収入は以前の倍になりました。両親はスイちゃんと妹の学費や学用品代を賄い、将来に備えて貯蓄もできるようになりました。

「支援がなかったら、畑で懸命に働いても食べ物に困る生活が続いていたでしょう。娘たちを今のように楽しく学校に通わせてあげることもできなかったと思います」と母親は話します。スイちゃんの夢は、村の学校の先生になることです。この夢を叶えるために、両親はスイちゃんに高等教育を受けさせたいという願いを持ち、熱心に仕事に励んでいます。



母親と鶏にエサをやるスイちゃん  
(左、11歳)



養殖した魚を捕っているところ。魚は夕食のおかずになります

## 生計向上プロジェクト



収入は向上していますが、次なる挑戦も見えてきました



1ヘクタールあたりのコメの収穫量が300kg増加



SRI農法を学ぶ農家の人々

貧しい住民の収入向上に焦点を当てて、新しいコメの栽培方法（SRI農法）、多様な農作物の栽培、養鶏、養豚、帳簿の付け方や、グループ貯蓄の導入を推進しています。SRI農法を導入したモデル農家44世帯では、1ヘクタールあたりの収穫量が300kg増加しました。養鶏、養豚に携わる農家のみならず、獣医に対しても研修を行ったことで、地域で飼育される家畜の数は増加しています。ADPIに参加する多くの世帯で収入が向上していますが、さらなる収入の向上と安定化のためには、市場を開拓する能力の向上が課題となっています。



養豚を始めたリィさん（右）。育てた豚を販売し、年間700万ドン（約330米ドル）の収入を得ています

## 保健衛生プロジェクト



トイレの世帯別普及率が郡の平均を上回りました



衛生的なトイレがある世帯の割合  
62.5%（郡平均60.15%）



栄養クラブで栄養価の高い食事の作り方を学ぶ母親たち

栄養クラブの活動を通して、栄養に対する人々の関心と理解が深まった結果、23の栄養クラブに参加する5歳未満の子どものうち、低体重の子どもの割合が2013年度の14.38%から13.2%に減少しました。また、水・衛生環境の改善に向けて学校の生徒334人を対象に研修を実施しました。地域で活動する保健ボランティアとの連携によって、子どもたちを含む地域住民の間で衛生に関する知識が普及し、行動が変化することが期待されています。



学校の課外授業で衛生的な生活習慣について学ぶ生徒たち

実際に安全な水へのアクセスがある世帯の割合が、2013年度の82%から2014年度は88.3%に、衛生的なトイレがある世帯の割合が55.3%から62.5%に増加しています。トイレの世帯別普及率は郡の平均である60.15%を上回りました。

## 指導者育成プロジェクト



地域の持続的な発展のために人づくりの重要性が認識されています



人材育成に関する住民からの事業提案数が増加  
4件（2013年度）→ 8件（2014年度）



気候変動に対応した生計向上活動について議論する地域住民

2014年度はチャンエンADPの第1段階の最終年だったため、これまでの成果と課題を確認するために事業の評価を行いました。この事業評価に、これまで地域の指導者育成の一環として事業の計画、運営、評価について学んだ地域住民が積極的に参加しました。事業評価に参加したことで、住民は研修で学んだ評価のノウハウを実践することができ、ADPIは住民の視点も取り入れた評価を行うことができました。

持続的な地域の発展のために、ADPでは住民が主導して地域改善の取り組みを始めるよう支援しています。これまで提案、実施された事業は建設など目に見える案件でしたが、啓発や技術研修といった人材育成に関する事業が2013年度の4件から2014年度は8件に倍増しました。WVが目指す、住民自身の力による地域づくりの理念が、浸透しつつあります。

## 教育プロジェクト

「子どもを中心とした教育」手法を実践する幼稚園で学ぶ子どもたち



教育の質の向上が子どもたちの成績向上にも良い影響をもたらしています

優良な成績を収めた生徒の割合が増加  
47.6% (2013年度)  
→ 59.6% (2014年度)

幼稚園での就学前教育に参加する子どもの割合は、2013年度の94%から2014年度は96.4%まで向上しました。これは保護者の教育に対する理解と関心の表れと言えます。保護者の意識向上を受け、ADPでは保健プロジェクトと連携して、5歳未満児を持つ保護者250人を対象に、母子保健や栄養に関する啓発活動を行いました。

また教育局の統計によれば、ADPの活動対象となる5つの小学校で、「優良」と評価される成績を修めた生徒の割合は、2013年度の47.6%から2014年度は59.6%に増加しました。ADPの活動に参加した教員が行っている参加型学習法を通して、生徒がより積極的に学び、学習成果がしっかりと身につけていることが、この結果に表れています。



小学校での参加型学習法の様子

## 支援地域の女性のインタビュー

養鶏を始めたンガさん（35歳）。ひな鳥を売って年間400万ドン（188米ドル）の収入を得られるようになりました



## 家畜の飼育を始めて収入が増えました

- Q. 家族構成を教えてください。
- A. 夫と人の子どもの4人家族です。
- Q. 子どもの頃学校に通いましたか。
- A. 9年生まで通い中学校は修了しました。私たちの時代は、この地帯で暮らす子どもは9年生まで学校に行ければ良い方でした。
- Q. ADPのどのような活動に参加していますか。
- A. 生計向上の活動に参加し、鶏を飼育して繁殖させる方法を学び、養鶏を始めました。一回の繁殖で生まれた鶏を売るだけで、2人の子どもの1年分の学費と、学用品や衣類を賄うことができます。また、栄養クラブに参加して、ほかの女性たちの家畜飼育の経験や、栄養管理、育児についても学んでいます。
- Q. 活動に参加してどのような変化がありましたか。
- A. ADPの活動は、私たちの生活の改善の助けになっているだけでなく、相互扶助という私たちの伝統をさらに強めてくれています。村の人々とグループを作り、収穫高を上げるために農法と一緒に研究したり、栄養クラブでほかの女性たちと学んだことを分かち合うなど、お互いに助け合うことができました。
- Q. 今の夢を教えてください。
- A. 子どもたちが高等教育まで受け、夢を実現し、人の役に立つ人間になることが私の願いです。

卵も重要な収入源です。右は娘のオアンちゃん（13歳）



## ADPスタッフ インタビュー

- Q. ADPでどのような仕事をしていますか。
- A. 地域の住民組織と緊密に連携しながら、地域の課題を分析し、子どもたちの健やかな成長のための具体的な活動を企画し、実施につなげる仕事をしています。私は特に保健分野のプロジェクトの計画、実施、報告を担当しています。
- Q. ADPで働く原動力となっているものは何ですか。
- A. 困難な状況下で暮らす子どもたちや家族が、健康でより良い生活をしていくために、自分の公衆衛生の知識と経験を生かすことができることに喜びを感じています。



チャンエンADPスタッフ ド・ティ・タン (30歳)

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



チャイルド・スポンサーへ送るグリーンディングカードを作成しました

## 会計報告

### 収支計算書

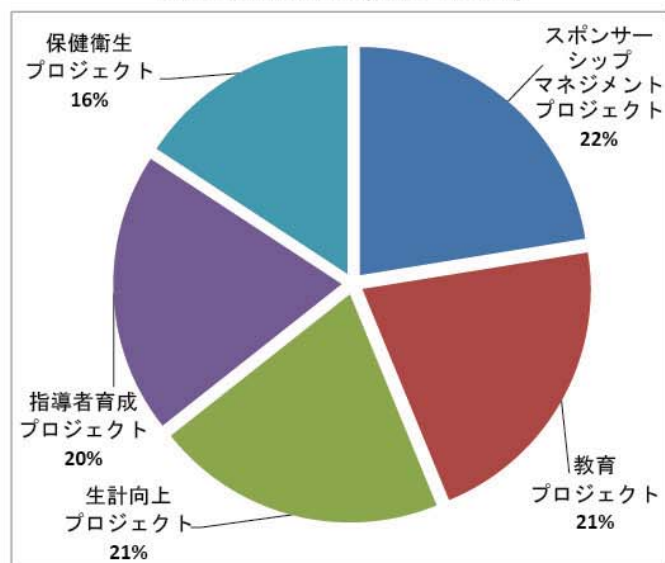
自 2013年 10月1日 至 2014年 9月30日

	VNM-190848 (単位：円)
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	26,785,952
当期支援額	26,785,952
前期繰越金	49,636
プログラム支援額合計	26,835,588

プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	5,942,548
教育プロジェクト	5,656,153
生計向上プロジェクト	5,442,627
指導者育成プロジェクト	5,267,039
保健衛生プロジェクト	4,172,755

プログラム支出額合計	26,481,122
次期繰越額	354,466

### 支援分野別内訳 (VNM-190848)



お問い合わせ  
特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 | FAX：03-5334-5359 | Email：dservice@worldvision.or.jp | ホームページ：www.worldvision.jp  
ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。